



信頼性判断における一般的信頼の限定的効果

著者	林 直保子, 村上 史朗
雑誌名	社会的信頼学
巻	2
ページ	35-60
発行年	2014-03-31
その他のタイトル	Limited Effect of General Trust in Judgment of Other's Trustworthiness
URL	http://hdl.handle.net/10112/8448

信頼性判断における一般的信頼の限定的効果

林直保子¹・村上史朗²

【要約】

信頼性判断と一般的信頼に関するこれまでの研究では、高信頼者が低信頼者よりも他者の信頼性を正確に見極められるかどうかに関して、一貫した結果が得られていなかった。本研究では、信頼性判断に用いることができる情報量に着目し、ターゲットについての情報が加算的に追加される状況において、初期情報に基づく信頼性判断に及ぼす一般的信頼の効果とその持続性について検討した。また、後続情報に対する反応パターンと個人特性の関連について検討した。その結果、1) 信頼性判断に及ぼす一般的信頼の効果は、情報が追加されるに従い速やかに消滅すること、2) 自己利益のために他者を利用しようとする傾向（道具的關係志向）の高い人ほど、ネガティブ情報が追加された際にターゲットの信頼性評価を急速に低下させないことが明らかとなった。

キーワード：信頼性判断，一般的信頼，道具的關係志向，用心

1. 問題

市民社会の諸価値観の中で最も重要なもののひとつが信頼であることは、多くの社会学者が指摘してきたことである。社会関係資本に関する議論においても、信頼はその重要な構成要素として扱われており、信頼の機能に関する分析も数多く提出されている(e.g., Brehm, & Rahn, 1997; Cook, 2001; Hardin, 2002; Kramer & Cook, 2004; Putnam, 1993, 2000)。

信頼をめぐる議論には種々の流れがあるが、その一つは、進化ゲーム論的アプローチを取り入れたものである。そこでは、高い信頼感をもつことが、機会費用の高い社会において適応的だとされる(山岸, 1998, 1999)。この議論は「信頼の解き放ち理論(山岸, 1998)」として整理されているが、ここで扱われている信頼感は、「一般的信頼」に関するものであり、特定の個人に対する個別的信頼感とは異なる³。「信頼の解き放ち理論」は、高い信頼と他者の人間性についての「見極め能力」が社会関係の流動性が高い社会では共進化すると想定し、「賢くだまされない高信頼者」を描き出すとともに、「人間性を見抜く社会的知性に欠けた低信頼者」をそれに対照するものとして想定している。

しかし、林と与謝野による一連の研究は、上記の想定と矛盾する結果を示しており、「信頼の解き放ち理論」の一般性に関しては検討すべき点が多い。これらの点を踏まえ、本稿ではまず、一般的信頼と信頼性判断の問題をめぐる、改めて検討すべき点を整理したい。

¹ 関西大学社会的信頼システム創生センター， 関西大学社会学部

² 奈良大学社会学部

³ この一般的信頼は「相手についての情報がない場合の相手の信頼性に対する“デフォルト値”（山岸, 1998, p350）」として定義される。

1-1 一般的信頼と信頼性の見極め

一般的信頼と信頼性判断の関連性については、菊池・渡辺・山岸(1997)の先駆的な研究により、一般的信頼の高い人々は低い人々に比べ他者の人間性をより正確に推定できることが報告されている。この知見は、「信頼の解き放ち理論」の重要な基礎となっており、高信頼者が騙されやすいお人好しではないことの実証的根拠のひとつを提供する。菊池らの実験は、参加者が30分間の集団討議後に囚人のジレンマをプレイし、そこでの行動選択を互いに予測するものであった。菊池らはこの実験の結果として、高信頼者は低信頼者よりも、他参加者の行動選択を正確に予測することを報告した。

Hayashi & Yosano(2005)は、菊池ら(1997)の用いた見極め課題の問題点、すなわち、囚人のジレンマにおける行動予測が、信頼性判断の課題として適切ではない点を指摘した上で、分配委任ゲームを用いる以外は菊池らとほぼ同様の実験手続きにより、一般的信頼と信頼性判断の関連を再検討した⁴。その結果、一般的信頼は、意見の対立といったグループでの情報提供の量をコントロールした場合、見極めの精度に対して一切の効果をもたなかった。集団内に共有された人間性情報、人数等の効果をコントロールした場合、見極めの精度を規定するのは一般的信頼ではなく、他者の社会規範の内面化に関する想定が重要であった⁵。その後の林らによる一連の研究(林・与謝野,2010;林,2011a,2011b,2011c)は、集団討議における討議の内容や雰囲気により信頼性判断の材料が変化することを避けるため、討議場面の映像を刺激として用いた信頼性判断実験を行い、人々の信頼感と他者の信頼性判断の正確さには関連がないことを報告した。さらに、映像を用いる実験では、実験参加者がターゲット人物の信頼性を判断するために考慮したい情報が必ずしも与えられないという限界を克服するため、林(2012)はターゲット人物との対面コミュニケーションに基づき信頼性判断を行う実験を行い、一般的信頼と信頼性判断の間に相関がないことを報告した。

一方、品田・山岸・Krasnow(2010)は、ターゲットの顔を数秒間視聴し、その情報のみからターゲットの利他性を判断する課題をもちいて、高信頼者は低信頼者よりも他者の利他性の判断能力が優れているという結果を報告した。品田らの実験では、刺激人物が物語を読み上げる場面を撮影し、その最後の部分(「めでたしめでたし」と読み上げる部分)のみを取り出し、参加者に提示した。その結果、その刺激人物が数か月前にプレイした独裁者ゲームにおいて利他的にふるまったかどうかについての予測の正確さは、高信頼者の方が低信頼者よりも高かった。

このように、信頼感と信頼性の関連については、必ずしも一貫した結果が得られて

⁴ 囚人のジレンマでは、プレイヤーが搾取への恐れから非協力行動をとる場合があるため、非協力を選択した個人の信頼性の低さを必ずしも意味しない。一方、分配委任ゲームにおける分配者の役割では、搾取を恐れることなく自由に分配額を決定できるため、信頼性判断の課題としてより適切である。

⁵ Hayashi&Yosano(2005)で用いられた「規範の内面化の想定」因子を構成する項目は、「法律を守るのは良識ではなく、罰をうけるからである」、「ほとんど人は自分の幸せを第一に考えている」、「嘘が有利でも、たいていの人は真実を話す」、の3項目であった。

いない⁶。信頼感と信頼性の精度の間の正の相関を示した品田らの実験では、数秒間の表情が情報として提示されているのみであり、判断に用いることができる情報がきわめて限られている。一方、林らによる一連の研究では、集団討議場面における対人的振る舞いや発言等比較的多くの情報が提示されていた。このようにターゲット人物についての情報が多く提示される条件では、信頼感と信頼性判断の精度の間に相関がみられないことから、他者一般に対する信頼である一般的信頼の高さが他者の信頼性判断の正確さに関連するのは、相手に関する情報がきわめて少ない場合に限られるという可能性が考えられる。

ところで、「信頼の解き放ち理論」が想定する「賢くだまされない高信頼者」と「人間性を見抜く社会的知性に欠けた低信頼者」の対照的なパタンの実証的根拠として、上記の「見極め実験」とは別に、他者の人間性情報に対する敏感さと一般的信頼の関連を検討した「敏感さ実験」がある。下記に、「敏感さ実験」をめぐる議論を整理する。

1-2 一般的信頼と情報に対する敏感さ

一般的信頼と情報に対する敏感さについての実証研究は、小杉・山岸(1998)が出发点である。小杉・山岸(1998)は場面想定法を用いて、他者の信頼性の欠如を示唆する情報が与えられたとき、一般的信頼の高い人々が、一般的信頼の低い人々よりも急速に他者の信頼性判断を低下させることを示した。山岸(1998)はこの実験結果に基づき、「他者一般を信頼する傾向が強い人間は、通常考えられているように『騙されやすいお人よし』ではなく、むしろ逆に、他人が信頼できるかどうかを示唆する情報に対して敏感」(p19)であると示し、これを高い信頼感を支える社会的知性の存在の根拠とした。

林・与謝野(2005)は、小杉・山岸(1998)の実験を再検討し、対象人物の信頼性のデフォルト推定値(＝一般的信頼)の測定方法を修正した上で実験を行い、高信頼者のみが他者の信頼性情報に対して敏感に反応するのではなく、低信頼者は他者のポジティブ人格情報に敏感に反応するため、高信頼者と低信頼者は対称な反応パターンを有していることを示した。林・与謝野(2005)はさらに、一般的信頼が低く、他者の信頼性情報に敏感であることでリスクを回避しながら見知らぬ他者の信頼性情報評価しつつ、機会を拡大する「リスク回避型機会拡大戦略」と、一般的信頼を高く保ちつつ、他者の信頼性の欠如を示す情報に敏感に反応して信頼感を下げていく「リスク許容型機会獲得戦略」の2種類を想定し、人々のもつ社会的資源との関連で、これらの戦略の存在を示した。

⁶ 具体的には、参加者は、ターゲット人物が独裁者ゲームにおいて、平等分配ないし利他的に分配した可能性を%で推測した。品田らの実験では、見極めの対象として独裁者ゲームにおける分配額が用いられている点で、分配委任ゲームを用いた林らの一連の研究とは異なっている。両者の結果の違いを解釈するにあたり、独裁者ゲームでは分配者は一方的に分配額を決定するため、「自分を信頼して分配を委任した相手に対する分配」という応報的側面が含まれる分配委任ゲームとは異なり、品田らが適切に述べているように人々の「利他性」の見極め課題になっている点を考慮する必要がある。

1-3 信頼性の見極めと信頼性情報の処理

一般的信頼とそれを支える社会的知性をめぐる問題は、上述したように、信頼性を見極めと信頼性情報の処理のふたつの研究の流れに分類することができる。そして、信頼性を見極めに関しては、判断に用いることができる情報が少ない場合に限り、一般的信頼と信頼性判断の精度との間に正の相関が報告されている⁷。一方、信頼性情報の処理に関するこれまでの研究は、相手に関する情報がまったくない状況からわずかな情報のみが得られる状況についての信頼戦略を問題としてきており、情報が多く与えられる場合については検討がなされてこなかった⁸。このように、一般的信頼と信頼性判断に関する一連の先行研究の結果を情報量に関して整理することにより、一般的信頼はターゲット人物に関する情報がきわめて限られる場合にのみ信頼性判断に関連している可能性が示唆される。本研究は、信頼性判断と一般的信頼の関係を統合的に理解するためには信頼性情報の情報量を操作した実証研究が必要であるとの立場に立ち、調査研究を行った。

1-4 本研究の目的

先述のとおり、一般的信頼と信頼性判断の関連が報告されている先行研究はいずれも、ターゲット人物についての情報がきわめて限られている状況を扱っている。「相手についての情報がない場合の相手の信頼性に対する“デフォルト値”」である一般的信頼の効果が、判断に用いることができる信頼性情報が増えるにしたがって消滅する場合、一般的信頼の果たす役割は、当初想定されたものよりも限定的なものとなるだろう。多くの情報にもとづいて判断がなされる現実の重要な対人的意思決定場面において一般的信頼は意味をもたないことになるからである。勿論、多人数の社会的ジレンマ等、「他者一般」との相互作用においては一般的信頼は重要な役割を果たすと考えられるが、個別の限定交換に入ろうとするか否かの意思決定において果たす役割は小さなものになると考えられる。そうであるなら、「解き放ち理論」が想定したような「機会費用の節約」に関する一般的信頼のもつ効果については、再度の検討が必要になるだろう。本研究では、特定の人物についての情報が徐々に加算されていく状況における一般的信頼の効果の持続性について検討することを第一の目的としている。

ところで、信頼性判断に用いることができる情報が加算的に増えていく状況を考えてみると、信頼性の初期判断とは別に、ターゲット人物について情報がどの程度蓄積されれば信頼性判断をしてよいと考えるかという判断留保についての戦略が考えられる。判断留保戦略がどのような個人特性と関連しているのかを探索的に検討することが本

⁷ 菊池ら(1997)の研究は、情報が多い場合の信頼性判断の正確さと一般的信頼の高さとの関連を報告しているが、菊池らの実験における見極め課題の性質を考慮し、ここでは除外して考える。

⁸ 小杉・山岸(1998)、林・与謝野(2005)の実験は、「年寄りの手をひいて横断歩道を渡っていた(ポジティブ情報)」、「並んでいる列に割り込んでいた(ネガティブ情報)」など、行動予測を求められている場面とは直接関係のない情報が、一つまたは二つ与えられるというものであった。

研究の第二の目的である。人が他者に関する信頼性判断を留保する理由として、相手のネガティブな側面について情報探索を継続する場合と、ポジティブな側面について情報探索を継続する場合が考えられる。相手についてのネガティブな情報が得られる可能性に注意が向く傾向は、先行研究において一般的信頼の対概念として位置づけられていた「用心」と強く関連していると予測できる。用心は、「他人から騙される可能性を常に意識しておく必要がある」という意識であり、ネガティブ情報の探索はリスク回避のための情報探索として解釈できる。一方、ポジティブな側面についての情報探索は、機会拡大のための情報探索として解釈できる。機会拡大に対して消極的な個人は、相手の信頼性の欠如を示唆する情報がわずかでも得られれば、初期の段階で「信頼できない（しない）」という判断を下すことでリスクを回避することができるが、それは潜在的な機会を失うことを意味する。逆に、信頼性を示唆する情報を継続して収集することにより機会を獲得する可能性を探索することもできる。本研究では、機会獲得に対する積極性に関して、「道具的關係志向性」という概念を提唱し、信頼性判断、とくに判断留保戦略との関連性を検討する。本研究で取り上げる道具的關係志向とは、対人関係を自分が利益を得るための道具として捉える傾向であると位置づける。道具的關係志向が強い人は、信頼性の低い側面のある相手であっても、全体的に自分にとってのメリットが期待できる相手であれば、関係構築を志向すると考えられる。

1-5 信頼性情報と信頼性判断

上述のとおり、本研究では他者についての信頼性情報が加算的に提示される状況における信頼性の初期判断と、後続情報に対する反応パターンを問題としている。この目的のため、本研究では、後続情報が比較的大きな情報価値をもつよう、初期情報のみに基づく判断が、後続情報をも考慮した多数の情報に基づく判断と乖離する情報提示パターンを採用した。より具体的には、初期に提示される少数の情報がターゲット人物の信頼性の高さを示唆するものであり、情報が加算されるにつれその人物の信頼性の欠如を示唆する情報が多数提示される下降情報系列と、初期に提示される少数の情報がターゲット人物の信頼性の欠如を示すものであり、情報が加算されるにつれその人物の信頼性の高さを示唆する情報が多数提示される上昇情報系列の2種類を設定した。これら2系列の情報をもちいて信頼性判断と一般的信頼、用心、道具的關係志向の関連について検討した。より具体的には、1)初期情報に基づく信頼性判断に及ぼす一般的信頼の効果とその持続性の検討、2)上昇系列における後続のポジティブ情報に対する敏感さに及ぼす用心と道具的關係志向の効果、3)下降系列における後続のネガティブ情報に対する敏感さに及ぼす用心と道具的關係志向の効果の3点について検討する。

2. 予備調査 1

前節で述べたように、本調査では初期情報のみに基づく判断と全体情報を用いた判

断が乖離するような情報のセットを用いる。このようなセットは種々のパタンが考えられるが、もっとも単純には、初期情報では信頼性が低いが次第に信頼性の高さを示唆する情報が与えられ、全ての情報を総合すると信頼性の高さを示す上昇系列と、初期情報では信頼性が高いことを示唆する情報が与えられるが、次第に信頼性の欠如を示す情報が与えられ、全ての情報を総合すると信頼性の低さを示す下降系列が考えられる。ここでは、これら二種類の系列の質問紙を作成するために予備調査1を行った。予備調査1は、信頼性情報に用いるシナリオの選定を行うこと、および各場面において登場人物がとる、信頼性が異なると想定される3種の行動について、信頼性情報価値の基礎情報を収集することを目的に行われた。

2-1 方法

予備調査1では、登場人物である「Aさん」が置かれた状況（例：とても疲れている夜中に、普段そんな時間には電話をかけてこない友人からAさんに電話があった。Aさんは…）と、その状況でAさんがとる行動（例：疲れているので明日話を聞くとだけ伝えて電話を切った）がセットで提示され、回答者は提示された情報に基づき質問に回答した。調査は、近畿圏内のふたつの4年制大学において実施された。調査票は、心理学関連の授業時間内に配布・回収を行った。

回答者 大学生107名（男性45名、女性62名）が質問紙に回答した。

質問紙の構成 質問紙は、52種類のシナリオ（登場人物であるAさんがおかれた状況の説明）と、その状況でAさんがとった行動のセットが提示され、シナリオと行動の各セットについて、「このような人は、あなたと同じ大学の学生で何%いると思いますか（問1）」、「このような人は、どの程度信頼できますか（問2）」、「この情報は、Aさんが信頼できるかどうか判断するために、どの程度役に立ちますか（問3）」の3項目に回答を求めた。問1は0～100%の範囲で回答を求め、問2と問3は1（まったく信頼できない／まったく役に立たない）～7（とても信頼できる／とても役に立つ）の7件法で回答を求めた。質問紙は各シナリオ状況で登場人物であるAさんがとる行動が異なる3種類を作成し、ランダムに配布した。

2-2 結果

52種類のシナリオと各々のシナリオ状況における3種類の行動について、「このような人は、あなたと同じ大学の学生で何%いると思いますか？」という問1への回答の平均値を求めたところ、最大で76.3%、最小で17.7%であった。また、「この情報は、Aさんが信頼できるかどうか判断するために、どの程度役に立ちますか？」という問3への回答の平均値は最大6.0、最小で1.8であった⁹。各項目の信頼性判断（問2）

⁹ この予備調査では、信頼性判断と直結する情報と関連性の低い情報を弁別することも目的としており、信頼性判断と関連性が低いと想定される行動情報も含まれていた。ただし、本研究では行動情報と信頼性

の平均値と標準偏差を付表 1 に示した。これら信頼性判断の値に基づき、予備調査 2 および本調査に用いる項目の選定を行った。具体的には、シナリオと組み合わせる行動の信頼性情報としての情報価値の分散を確保するため、各シナリオ 3 種類の行動情報の信頼性評価の平均値の最大値と最小値の差が大きなものから順に 30 場面を選定した。

3. 予備調査 2

予備調査 1 の結果に基づき選定した 30 場面のシナリオと行動のセットを用いて、本調査で用いる上昇系列と下降系列の 2 種類のシナリオ・行動セットを作成するために、予備調査 2 を行った。予備調査 2 は、本調査におけるシナリオの提示順序を決定するための基準情報を得ることを目的としている。予備調査 1 で選定した 30 のシナリオについて、それぞれ 3 種類の行動情報を同時に提示することで、各刺激の信頼性情報価値を確認することを目的に、予備調査 2 を実施した。

3-1 方法

予備調査 2 では、予備調査 1 の結果に基づき選定した 30 場面のシナリオと、その状況で A さんがとる 3 種類の行動情報すべてがセットで提示され、回答者は提示されたそれぞれの行動情報について SD 法項目に回答した。調査は、近畿圏内のふたつの 4 年制大学において実施された。調査票は、心理学関連の授業時間内に配布・回収を行った。

回答者 大学生 42 名（男性 19 名，女性 23 名）が調査票に回答した。

質問紙の構成 質問紙は、表紙と 30 ページの質問ページから構成された。表紙を除く各ページには、冒頭に登場人物がおかれた状況を説明する説明文が提示され、続いてその状況において登場人物のとる、信頼性が異なると想定される 3 種類の行動が提示された。回答者はそのそれぞれの行動について 9 対の形容詞対に対し、5 件法で評価した。形容詞対は、信頼性のふたつの側面（誠実さと能力）を測定することを目的に、あたたかい—つめたい、よい—わるい、まじめな—ふまじめな、信頼できる—信頼できない、強い—弱い、優れた—劣った、誠実な—誠実でない、有能な—有能でない、合理的な—非合理的な、の 9 対を用いた。

3-2 結果

予備調査 2 では、各回答者は 30 シナリオ×3 行動情報の刺激のそれぞれに対して 9 対の SD 法項目に回答しているが、ここでは、本調査に用いる情報の提示順序を決定することを目的とするため、信頼性判断（信頼できる—信頼できない）の項目のみに焦点を絞り、結果を報告する。

判断の関連性については検討対象としていないため、以降はこの点については扱わない。

付表 2 に示される信頼性判断の値に基づき、本調査で用いる項目の提示順序の決定を行った。具体的には、上昇系列の作成においては、「信頼できる—信頼できない」の評定において、各シナリオと組み合わせられる 3 行動情報の中で最も信頼性評価の高いものを、評定値の高いものから 20 項目を選定し、第 11 試行から第 30 試行まで、最終試行にもっとも信頼性評価が高いものが出現するよう順に配置した。次に、予備調査 2 で用いた 30 のシナリオのうち上記で用いた 20 シナリオを排除した 10 シナリオに関して、3 行動情報の中で信頼性評価の値が中間に位置したもの（ニュートラル情報）を選び、それら 10 行動情報を信頼性の低いものから高いもの順に並べ、第 1 試行から第 10 試行までに配置した。同様に、下降系列の作成においては、「信頼できる—信頼できない」の評定において、3 行動情報の中で最も信頼性評価の低いものを、信頼性の低いものから順に 20 項目選定し、信頼性の高い順に 20 個並べ、これに先立ち、ニュートラル情報を信頼性の高い順から 10 情報配置した。

4. 本調査

一般的信頼と他者の信頼性判断に関する先行研究の結果を踏まえ、情報が加算的に提示される状況における信頼性判断と、その判断パターンに及ぼす一般的信頼、用心、道具的關係志向性の効果を検討するために、予備調査 1 および予備調査 2 で作成した情報セットを用いて本調査を行った。なお、本調査では、一般的信頼、用心、道具的關係志向性と関連が想定される複数の個人特性も測定し、概念間の相関関係を確認することも目的の一つとした。

4-1 方法

調査は、近畿圏内のふたつの 4 年制大学において実施された。調査票は、心理学関連の授業時間内に配布・回収を行った。回答者は本調査の 1 週間から 3 週間前に、一連の心理尺度を含む事前調査票に回答した。2 種類の調査票は回答者が特定されないよう記入された ID 記号によりマッチングし、分析に用いた。

回答者 事前調査の回答者は大学生 113 名、本調査の回答者は大学生 120 名であった¹⁰。マッチングにより事前調査と本調査の両方への回答が確認されたのは大学生 76 名であった。

事前調査票の構成 事前調査票は、一般的信頼尺度・用心尺度(山岸, 1998; Yamagishi & Yamagishi, 1994), 制御焦点尺度日本語版 (Lockwood, Jordan, & Kunda, 2002; 尾崎, 2006), 楽観主義尺度日本語版(中村, 2000; Scheier & Carver, 1985), および本研究で独

¹⁰ 本調査では、提示される各場面における登場人物の「A さん」はすべて同一人物であり、各ページで提示される情報を読んで、それまでの情報を総合して質問に答えるよう教示された。しかし、各場面の情報に対し独立に信頼性を評価していると思われる回答者が含まれていたため、基準を設けてそれらの回答者のデータを分析から除外した。具体的には、連続する 2 回の回答間の変動の絶対値を計算し、その平均値が 25 を超える回答 10 名分を分析から除外した。

自に作成した道具的關係志向尺度から構成された。

本調査質問紙の構成 予備調査2の結果に基づき、上昇系列条件と下降系列条件についてそれぞれ30場面（各場面1つの行動情報を含む）を用いた。質問紙は、表紙と30ページの質問ページ、および事後質問項目（14項目）から構成された。表紙と事後質問項目を除く各ページには、冒頭に登場人物がおかれた状況を説明する説明文とそこで登場人物がとる行動が提示された。続いて、「Aさんが信頼できる人かどうか、今のあなたのお気持ちで評定してください」、「上のあなたの判断にどの程度自信がありますか。確信の程度を回答してください」、「Aさんは人を裏切るような人だと思いますか」の3項目について、それぞれ0～100の値で回答を求めた。

4-2 結果

4-2-1 事前質問紙の分析

一般的信頼・用心尺度 一般的信頼尺度の6項目について最尤因子分析を行い、一因子構造を確認した上で、加算平均を求め一般的信頼尺度得点とした($\alpha=.85$)。また、用心尺度7項目について最尤因子分析を行い、一因子構造を確認した上で加算平均を求め、用心尺度得点とした($\alpha=.79$)。

楽観的自己感情・悲観的自己感情尺度 楽観的自己感情尺度4項目について最尤因子分析により一因子構造を確認した上で、信頼性係数の値を参考に1を削除し、3項目の加算平均を求め楽観的自己感情得点とした($\alpha=.68$)。悲観的自己感情尺度4項目について最尤因子分析により一因子構造を確認した上で、信頼性係数の値を参考に1項目を削除し、3項目の加算平均を求め悲観的自己感情得点とした($\alpha=.70$)¹¹。

制御焦点尺度 促進焦点因子（8項目）、予防焦点因子（8項目）それぞれについて最尤因子分析により一因子構造を確認し、加算平均を尺度得点として用いた（促進焦点因子: $\alpha=.84$ 、予防焦点因子: $\alpha=.74$ ）。

道具的關係志向尺度 道具的關係尺度に関しては、当初7項目により測定したが、探索的因子分析の結果を参考に3項目を削除し、4項目で1因子を構成し、因子得点を道具的關係志向得点とした。道具的關係尺度の項目と因子負荷量を表1に示した。

尺度得点間の相関 各尺度得点間の相関係数を表2に示した。一般的信頼は楽観的自己観と正の、悲観的自己観と負の有意な相関を示していた。また、一般的信頼は促進焦点得点と有意な正の相関を示していたが、予防焦点得点とは有意な相関をもたなかった。一方、予防焦点尺度は用心と有意な正の相関を示した。道具的關係志向は用心と有意な正の相関を示していた。この結果は、他者を利用しようとする人ほど他

¹¹ 分析に用いた項目は、楽観的自己感情に関して「結果がどうなるかはっきりしない時は、いつも一番良い面を考える」、「いつもものごとの明るい面を考える」、「自分の将来に対しては非常に楽観的である」の3項目、悲観的自己感情に関して「自分に都合よくことが運ぶだろうなどは期待しない」、「ものごとが自分の思い通りに運んだためしがない」、「自分の身に思いがけない幸運が訪れるのを当てにすることは、めったにない」の3項目である。

者から利用されることを恐れていることを示唆している。また、道具的關係志向と用心は、楽観的・悲観的の自己感情得点、制御焦点得点との間に類似した相関パターンを示した。

表 1 道具的關係志向尺度の最尤因子分析

項目	因子負荷量
自分にとってメリットのない対人関係に割く労力はほどほどにしておく方がよい	0.73
人が他人と付き合うのは、いずれ自分に利益をもたらしてくれると考えているからである	0.47
人が出世を望むのは、他人を自分の思い通りに動かしたいからである	0.45
特技をもつ人と知り合いになっておくと、なにかと便利である	0.42

表 2 尺度得点間の相関係数

	一般的信頼	用心	道具的關係志向	楽観的の自己感情	悲観的の自己感情	促進焦点得点	予防焦点得点
一般的信頼	1						
用心	-.45**	1					
道具的關係志向	-.23 *	.54**	1				
楽観的の自己感情	.26**	-.08	-.13	1			
悲観的の自己感情	-.22 *	.27**	.20 *	-.29**	1		
促進焦点得点	.39**	-.21 *	-.24 *	.20 *	-.18	1	
予防焦点得点	-.09	.27**	.16	-.28**	.33**	.03	1

*:<.05, **:<.01

4-2-2 初期の情報評価と各尺度得点の相関

次に、本調査と事前調査のデータをマッチングした上で、各情報系列 30 回の信頼性判断を 5 回毎の 6 ブロックに分割し、信頼性判断のブロック平均値を求めた上で、ターゲット人物の信頼性についての初期判断と各尺度得点の相関係数を計算した(表 3)。

表 3 信頼性の初期判断と各尺度得点の相関

	一般的信頼	用心	道具的關係志向	楽観的の自己感情	悲観的の自己感情	促進焦点得点	予防焦点得点
上昇系列における1回目の信頼性評価 (n=46)	-.11	-.04	-.16	.06	-.12	.21	-.06
下降系列における1回目の信頼性評価 (n=31)	.27 +	-.08	-.26 +	.13	-.06	.05	-.06
上昇系列における第1ブロックの信頼性評価 (n=46)	-.06	-.20	.01	.35	-.28	.18	-.35+
下降系列における第1ブロックの信頼性評価 (n=31)	.25+	-.18	-.35 *	.14	-.06	.21	.03

+:<.10, *:<.05

一般的信頼は、下降系列における 1 回目の信頼性評価($r=.27, p<.10$)、および第 1 ブロックの信頼性評価($r=.25, p<.10$)との間に正の相関を示した。下降系列における初期情報は信頼性の高さを示す情報であり、一般的信頼の高い人々がこれらに基づきターゲット人物の信頼性を高く評価する傾向があったことを示している。

道具的關係志向は下降系列における 1 回目の信頼性評価($r=-.26, p<.10$)、および第 1 ブロックの信頼性評価と負の相関を示しており($r=-.35, p<.05$)、道具的關係志向の高い

人ほど、初期の高信頼性情報に対し、ターゲット人物の信頼性を低く評価していた。初期の信頼性判断と用心の間には有意な相関は見られなかった。

なお、下降系列における一般的信頼と信頼性評価の相関は第2ブロックでは消滅していたが、道具的關係志向と信頼性評価の相関は第2ブロックにおいても有意だった（一般的信頼： $r=.05$, ns.; 道具的關係志向： $r=-.34$, $p<.05$ ）。

4-2-3 初期の情報に対する敏感さ

初期の信頼性情報に対する敏感さと一般的信頼、用心、道具的關係志向の関連を検討するために、1回目の判断から2回目の判断への変化の絶対値（初回変化量）とこれらの尺度得点の相関係数を求めたところ、下降系列において一般的信頼と初回変化量の間に正の相関がみられた($r=.36$, $p<.05$)。この結果は、一般的信頼の高い回答者が、信頼性の高さを示唆する1個目の情報が与えられたとき、同様に信頼性の高さを示唆する2個目の情報に対して、敏感に反応して評価を変化させていたことを意味する。用心、道具的關係志向と変化量との相関係数も正の値を示したが、有意水準には至らなかった（用心： $r=.13$, ns.; 道具的關係志向： $r=.21$, ns.）。上昇系列においては、一般的信頼、用心、道具的關係志向のいずれも、初回変化量との間に有意な相関をもたなかった（順に $r=-.02$, $-.09$, $-.06$ ）。

下降系列の初期変化量に対し、一般的信頼、用心、道具的關係志向を独立変数とした重回帰分析を行ったところ、一般的信頼の有意な正の効果および道具的關係志向の有意傾向が見られた（表4）。同様に、2回目から3回目への変化量、3回目から4回目への変化量を従属変数に、重回帰分析を行った（表4）。その結果、一般的信頼の正の効果は2回目から3回目への変化量で有意傾向となり、3回目から4回目への変化量に対しては効果をもたなかった。

表4 下降系列における初期の変化量に対する一般的信頼の効果

従属変数:	下降系列		
	第1試行-第2試行 β	第2試行-第3試行 β	第3試行-第4試行 β
一般的信頼	0.50**	0.27 +	-0.06
用心	0.22	0.30 +	0.00
道具的關係志向	0.25 +	0.18	0.32 +
決定係数	.28	.16	.12

+: <1.0 ,**: $<.01$

4-2-4 ブロック平均の変化と信頼、用心、道具的關係志向の関連

後続情報に対する反応パターンと一般的信頼、用心、道具的關係志向の関連性を検討するために、各ブロック間の信頼性評価の変化を従属変数にしたステップワイズ法に

よる重回帰分析を行った（表5）。

その結果、上昇系列、下降系列ともに、第5ブロックから第6ブロックへの変化に対して用心の効果が有意であった。すなわち、上昇系列においては、用心が高い人ほど最終ブロックに向けて信頼性評価を上昇させていたのに対し、下降系列においては、用心が高い人ほど信頼性評価を低下させない傾向にあった。

表5 各ブロック平均間の変化の重回帰分析（ステップワイズ法）

従属変数:	上昇系列		下降系列	
	第5ブロック-第6ブロック	第2ブロック-第3ブロック	第4ブロック-第5ブロック	第5ブロック-第6ブロック
	β	β	β	β
一般的信頼	-	-	-	-
用心	0.37 *	-	-	0.30 *
道具的關係志向	-	0.34 *	0.30 *	-
決定係数	0.13	0.12	0.09	0.09

また、下降系列において第2ブロックから第3ブロックへの変化と、第3ブロックから第4ブロックへの変化に対する道具的關係志向の正の効果が有意であった。下降系列においては第1ブロックで提示される情報をもっとも高い信頼性を示唆する情報であり、第2ブロックではほぼニュートラルな情報が、第3ブロック以降にターゲット人物の信頼性の欠如を示す情報が提示される。したがって、上記の効果は、情報の指し示す信頼性がネガティブ情報へと変化した段階で、道的關係志向の高い回答者ほど信頼性評価を低下させなかったことを意味している。

5. 考察

本研究では、他者の信頼性判断と一般的信頼に関する先行研究の知見を踏まえ、信頼性情報が加算的に追加され、ひとりの人物についての情報が最終的に30個まで蓄積される場合の反応パターンが一般的信頼を含めた個人特性とどのように関連しているかを検討することを目的とし、調査研究を行った。本研究で用いた信頼性情報は、初期情報は信頼性の欠如を示すが、後続情報では高信頼性情報が提示される上昇系列と、初期情報は信頼性の高さを示すが、後続情報では低信頼性情報が提示される下降系列の2種類であった。これら2種類の情報系列について、初期の信頼性判断と後続情報に対する反応パターンにおよぼす一般的信頼、用心、道具的關係志向の効果を検討した。

5-1 一般的信頼と信頼性判断

初期の信頼性判断に及ぼす一般的信頼の効果は下降系列においてのみ見られた。下降系列においては、初期情報は信頼性の高さを示唆するため、この結果は一般的信頼の高い回答者が初期の高信頼性情報に基づき、ターゲットの信頼性を高く評価したことを示している。また、初期の信頼性評価の変化についての分析結果も、一般的信頼

の高い回答者が初期情報に影響され、信頼性評価を大きく変動させていたことを示している。ただし、信頼性評価の変動に関する一般的信頼の効果は、第3試行から第4試行への変化では消滅しており、高信頼者の情報に対する敏感な反応は限定的なものであることが明らかとなった。

一方、上昇系列では一般的信頼の効果は見られず、林・与謝野(2005)により示された高信頼者と低信頼者の反応パタンの対象性の知見とは矛盾する結果であった。しかし、林・与謝野では、ターゲット人物についての情報がまったくない状態から、情報が1個、2個追加された場合の判断を扱っていたのに対し、上記分析で検討した初回信頼性判断は、すでにポジティブ情報（下降系列）、ネガティブ情報（上昇系列）が1個与えられた状態であるというデザインの相違点がある。本研究のデザインでは、低信頼者が1個目のポジティブ情報に対してどの程度敏感に反応したかを検討することはできないが、下降系列において一般的信頼の効果が2回目までにとどまり、3回目では有意傾向、4回目では消滅したことを考慮すると、下降系列では低信頼者が第1番目のポジティブ情報に大きく反応することで、その後の効果が見られなかった可能性が残される。この点については再度の検討が必要であろう。

5-2 信頼性判断と道具的關係志向、用心

後続情報への反応パターンと道具的關係志向、用心の関連を検討するために、30回の判断結果を検討した。その結果、下降系列について、道具的關係志向の継続的影響が確認された。すなわち、初期のポジティブ情報に続いて次第にネガティブ情報が追加されると、道具的關係志向の高い回答者はそれらのネガティブ情報に敏感に反応して信頼性評価を低下させるのではなく、ゆるやかに低下させる傾向があった。この結果は、ターゲットのポジティブな側面に目をむけ、自己利益のため相手を利用する可能性をさぐる傾向として測定した道具的關係志向が、後続情報への反応に予測通りの影響をもっていたことを示している。ただし、道具的關係志向は下降系列の初期判断において負の効果を示しており、道具的關係志向は初期のポジティブ情報に対して一般的信頼とは逆の効果をもっていた。つまり、初期情報に対する反応と後続情報に対する反応を併せて考えると、わずかな情報に基づき他者の信頼性を高く評価し、後続情報に対しては敏感に反応しない高信頼者と、限られた情報に対して信頼性を高く評価するのではなく、むしろターゲットの性質を慎重に見極めようと後続情報に反応した高道具的關係志向者という対照的なパターンが確認された。

一方、用心の効果は判断の最終局面に限定的なものであることが示された。上昇系列、下降系列のいずれにおいても、第5ブロックから第6ブロックへの変化には用心の効果は有意となった。本研究では当初、用心はターゲットについてのネガティブな情報探索と関連すると予測していたため、上昇系列においてはポジティブ情報に対する反応の慎重さ、下降系列においてはネガティブ情報に対する敏感さとして効果があ

らられると予想された。しかし分析の結果、用心の効果は極めて限定的であり、最終的なブロック平均の変化に影響するにとどまった。本調査は 30 場面の情報がそれぞれ 1 枚の調査票に記述されており、ターゲットについての情報があといくつ提示されるかが明らかな状況であった。したがってこの最終ブロックにおける用心の効果は、信頼性判断の最終的な着地点を決めるにあたり「調整機能」を果たしたと解釈できる。この最終判断への調整機能としての用心の役割に関しては、今後、情報数を変化させた調査や、最終的な情報数が回答者に示されない方法を用いることにより検証が可能である。

5-3 信頼性情報に対する反応パターンに関する分析の必要性

本研究では、30 個の情報を順次提示し、各時点での信頼性評価を測定した。そして、初期情報に基づく信頼性評価と、後続情報に対する信頼性判断の変化を 5 試行毎のブロックについて計算し、分析を行った。しかし、回答者の回答パターンにかかわらず 5 試行のブロックをあてはめ、ブロック平均値を求める方法では、多様な信頼性判断パターンの特徴を十分にとらえきれているとはいえない。今後は、判断の収束がどの時点で生じたかが明確となるような調査デザインや、一連の信頼性判断のパターンを一定の基準でカテゴリ化することにより、信頼性判断についてのより多くの知見を蓄積されることが期待される。

【引用文献】

- Brehm, J. & Wendy R., 1997, "Individual-level Evidence for the Causes and Consequences of Social Capital", *American Journal of Political Sciences*, 41(3): 999-1023.
- Cook, K. S. ed., 2001, *Trust in Society*, New York: Russell Sage Foundation.
- Fukuyama, F., 1995, *Trust: The social virtues and the creation of prosperity*, Glencoe, IL: Free Press.
- Hardin, R., 2002, *Trust and Trustworthiness*, New York: Russell Sage Foundation.
- 林直保子, 2011a, 「他者の信頼性の判断の正確さと信頼」『日本心理学会第 75 回大会発表論文集』, 81.
- 林直保子, 2011b, 「他者の信頼性判断の正確さに関する調査研究」『日本認知科学会第 28 回大会』, 275-277.
- 林直保子, 2011c, 「信頼性判断の正確さと社会的経験」『日本社会心理学会第 52 回大会発表論文集』, 236.
- 林直保子, 2012, 「社会関係の多様性と信頼性判断」『日本社会心理学会第 53 回大会発表論文集』, 150.
- 林直保子・与謝野有紀, 2005, 「適応戦略としての信頼：高信頼者・低信頼者の社会的知性の対称性について」『実験社会心理学研究』 44(1): 27-41.

- Hayashi, N. & Yosano, A., 2005, "Trust and Belief about Others: Focusing on Judgment Accuracy of Others' Trustworthiness," *Sociological Theory and Methods*, 37: 59-80.
- 林直保子・与謝野有紀, 2010, 「信頼, 社会的経験, 信頼性判断」『日本社会心理学会第 51 回大会発表論文集』 620-621.
- 菊地雅子・渡邊席子・山岸俊男, 1997, 「他者の信頼性判断の正確さと一般的信頼——実験研究」『実験社会心理学研究』, 37(1): 23-36.
- 小杉素子・山岸俊男, 1998, 「一般的信頼感と信頼性判断」『心理学研究』 69: 349-357.
- Kramer, R. M. and Cook, K. S. ed. *Trust and Distrust in Organizations*. New York: Russell Sage Foundation.
- Lockwood, P., Jordan, C. H., & Kunda, Z. (2002). "Motivation by positive or negative role models: Regulatory focus determines who will best inspire us", *Journal of Personality and Social Psychology*, 83(4), 854-864.
- 中村陽吉編, 2000, 『対人場面における心理的個人差——測定の対象についての分類を中心にして』ブレーン出版.
- 尾崎由佳, 2006, 「制御焦点尺度邦訳版作成の試み」『日本グループ・ダイナミクス学会第 53 回大会発表論文集』, 228-229.
- Putnam, R.D. (1993). *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- Putnam, R.D. (2000). *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*. NY: Simon Schuster.
- Scheier, M. F., & Carver, C. S., 1985, "Optimism, coping, and health: Assessment and implications of generalized outcome expectancies", *Health Psychology*, 4: 219-247.
- 品田瑞穂・山岸俊男・Krasnow, M., 2010, 「社会的知性としての一般的信頼」『日本グループ・ダイナミクス学会第 57 回大会発表論文』, 30-31.
- 山岸俊男, 1998, 『信頼の構造: ころと社会の進化ゲーム』 東京大学出版会.
- 山岸俊男, 1999, 『安心社会から信頼社会へ: 日本型システムの行方』 中央公論新社.
- Yamagishi, T. & Yamagishi, M., 1994, "Trust and commitment in the United States and Japan", *Motivation and Emotion*, 18(2), 129-166.

付表 1 予備調査 1 で用いたシナリオと行動の組み合わせと信頼性評価の平均値と標準偏差

シナリオ	行動	信頼性評価	
		平均値	標準偏差
1 とても疲れている夜中に、普段そんな時間には電話をかけてこない友人から A さんに電話があった。A さんは・・・	a) 疲れているので明日話を聞くとだけ伝えて電話を切った	4.89	1.28
	b) 疲れているので明日話を聞くとだけ伝えて電話を切った	3.43	1.20
	c) 電話に出なかった	3.95	1.00
2 A さんがキャンパス内を歩いていると、卒論研究のアンケートに協力して欲しいと声をかけられた。A さんは・・・	a) 謝礼が出るようであればアンケートに協力した	3.80	0.99
	b) 反応せずに歩み去った	3.29	1.05
	c) 快くアンケートに協力した	4.76	0.93
3 A さんがジュースの空き缶を手に持って歩いているときに、目の前の日用雑貨の店で「燃えるゴミ」のゴミ箱を見つけた。A さんは・・・	a) 「燃えるゴミ」のゴミ箱に缶を捨てた	3.09	1.07
	b) 店で少額の買い物をし、缶を引き取って欲しいと頼んだ	3.62	1.30
	c) あきらめて缶を持ち帰った	5.17	0.88
4 試験のために、A さんは友人と担当を決めて授業のノートを分担して取ることにした。A さんは・・・	a) その授業を何度か欠席してしまい、友人にノートを渡せなかった	2.54	0.95
	b) 普段通りにノートを取った	4.47	1.31
	c) 友人が見て理解しやすいうちに、他の授業よりも丁寧にノートを取った	5.58	1.16
5 A さんの所属するサークルのクリスマス会でプレゼンテーション交換がある。プレゼンテーションに行った A さんは・・・	a) メンバーの誰がもらっても喜びそうなものを選んで買った	4.94	1.24
	b) 仲の良い友人は喜びそうだが、他の人は興味を持たなそうなのを買った	3.80	0.90
	c) 自分の欲しいものを買った	4.14	0.80
6 友人たちと話しているとき、AKB48 の中で誰が良いかという話になった。AKB48 を全く知らない A さんは・・・	a) 周囲の人に話を合わせた	3.66	0.87
	b) 正直に知らないと言った	5.51	1.07
	c) AKB48 なんでもなく知らないと言った	3.69	0.82
7 バイトの同僚からシフトを替わって欲しいと頼まれた。その日には頑張れば調整可能な別の予定が入っていた A さんは・・・	a) 予定を調整してシフトを替わってあげた	5.26	1.09
	b) スケジュール管理がなっていないと同僚に説教した	4.15	1.33
	c) 先約が優先だと断った	4.49	0.93
8 友人たちと話しているとき、「犬と猫のどちらが好きか」という話になった。A さんは・・・	a) 犬が好きだと答えた	3.95	0.68
	b) 猫が好きだと答えた	4.50	0.96
	c) どちらも好きではないと答えた	4.03	0.73
9 A さんが自転車に乗っていると雨が降ってきた。A さんは・・・	a) カップを着た	4.43	0.85
	b) 濡れたままでいた	4.09	0.95
	c) 傘をさした	3.95	0.52

付表1 予備調査1で用いたシナリオと行動の組み合わせと信頼性評価の平均値と標準偏差 (続き)

10	自転車に乗っているBさんがいた。Bさんは道路の真ん中をふらふらと走っています。Bさんを避けるために、後ろから車に乗っているAさんは、・・・	a) 「ビーツ」と強めにクラクションを鳴らした	4.00	0.84
		b) 「ブツ」と弱めにクラクションを鳴らした	4.80	0.99
		c) Bさんが道路の端に寄るまで待った(クラクションは鳴らさなかった)	4.41	1.04
11	道路の真ん中を横一列に歩いている集団がいた。後ろから自転車に乗ったAさんは	a) ベルを鳴らした	4.43	0.88
		b) 集団が道路の端に寄るまで待った(ベルは鳴らさなかった)	4.71	1.09
		c) 無理やり集団を追い越した	3.92	0.76
12	自宅近くつろいでいるときに、Aさんの携帯電話に友人からメールが届いた。それにAさんは・・・	a) すぐに返信した	4.97	0.86
		b) 1時間ほど時間をおいて返信した	3.71	0.87
		c) 半日ほど時間をおいて返信した	3.41	1.01
13	友人に1,000円を借りたが相手はそのことを忘れていた。Aさんは・・・	a) 借りたお金のことは言わず、1,000円分を相手におごった	3.37	1.44
		b) 相手が気がつくまで何もしなかった	2.74	1.56
		c) 相手に1,000円を返した	5.70	1.13
14	Aさんが散策をしていたらマツタケがたくさん生えていた。もちろん他人の土地であるが、だれも見ている人はいない。Aさんは・・・	a) マツタケを採れるだけ採って持ち帰った	2.43	1.04
		b) マツタケを1つだけ採って持ち帰った	2.86	1.09
		c) マツタケには手を付けなかった	5.46	0.90
15	Aさんが遊園地に行ったら知らない子供がひとりで泣いている。そのときAさんは・・・	a) 声をかけて、一緒に親を探す	5.66	1.00
		b) 声をかけて、係員のところへ連れて行く	6.03	0.87
		c) 見て見ぬふりをする	3.19	0.81
16	Aさんは、インフルエンザにかかったが、すぐに病院で薬を処方してもらったため、体は楽になった。しかし、まだ他人に感染させてしまう恐れがあることがわかっていく。ちょうど友人と映画を見に行く約束の日で、以前からその予定をとっても楽しみにしていた。Aさんは・・・	a) マスクをして行った	3.46	1.52
		b) マスクをせず行った	2.74	1.16
		c) 約束は断り、自宅で静養した	5.49	0.80
17	友人の運転でドライブに出かけたところ、食事の際、運転手である友人がビールを注文した。Aは運転免許を誇っていない。Aさんは・・・	a) 何もいわず、電車で帰ると伝えた	2.97	1.56
		b) ビールを飲まないよう注意した	5.86	1.46
		c) ビールを飲むのを黙認した	2.46	1.12
18	Aさんは電車に乗っていたら、切符をなくしてしまいました。降りた駅で、駅員に伝えたところ、「どこから乗りましたか?」と聞かれた。乗車した区間の料金は500円ほどである。Aさんは・・・	a) 乗った駅より少し近い駅名を伝えた	2.66	1.08
		b) 正直に乗った駅名を伝えた	5.71	1.20
		c) 最低料金の範囲内の駅名を伝えた	2.27	0.96

付表1 予備調査1で用いたシナリオと行動の組み合わせと信頼性評価の平均値と標準偏差 (続き)

19	Aさんが友人と「携帯オフ車両」に乗ったとき、友人が携帯でメールを打ち始めた。Aさんは・・・	a) 自分もメールをチェックした b) 自分は携帯を使わないが、友人には注意しなかった c) 友人に「携帯オフ車両だよ」と注意した	3.06 3.97 5.30	1.11 0.83 0.70
20	Aさんはひとりで電車で乗り、車内でジュースを飲んでいたら、うっかり座席にごぼしてしまった。Aさんは・・・	a) 座席をハンカチ等でできるだけ拭いた上で、近くに座り、誰かが座りそうになったら、「そこ汚れています」と伝えた b) そのまま離れた座席に移動した c) 座席をハンカチ等で拭いた上で、離れた座席に移動した	5.51 3.09 4.00	1.27 1.16 1.00
21	Aさんはレポートの締め切りを忘れていて、前日になってそのことに気付いた。友人に電話したところ、「じゃあ見せてあげるよ」と言われた。Aさんは・・・	a) 友人のレポートを参考に、自分の意見を加えて書いた b) 友人の申し出を断り、すべて自分で書いた c) ほとんど丸写しした	3.43 5.34 2.70	1.22 1.28 0.88
22	Aは飲食店でアルバイトをしている。勤務終了の時間になったのでタイムカードを押そうとした瞬間、お客さんがどつとお店に入ってきた。その店ではたいてい、アルバイトは時間通りに勤務を終了する。そのときAさんは・・・	a) 見て見ぬふりをしてタイムカードを押した b) 店が落ち着くまで残った c) 店長に「時間なのであがってもいいですか?」と相談した	3.57 5.97 3.62	1.15 2.72 0.86
23	荷物をたくさんもおぼったおぼあさんが、取めの交差点を歩いた。信号が点滅し始めた。このままではおぼあさんは間に合わなそうである。後ろを歩いていたAさんは・・・	a) おぼあさんの荷物をもって「よかつたらら一緒にしますよ」と言った b) 「大丈夫ですか」と声をかけた c) 見て見ぬふりをした	5.77 5.89 3.27	1.06 1.23 1.19
24	AはBからある歌手のDVDを借りている。3日だけ借りるとBに伝えたが、気が付くと1週間がたっていた。しかし、できればもう少し手元においておきたい。BはDVDを貸したことを忘れていたようだった。Aさんは・・・	a) Bと会話するのを避けた b) 「もう少し借りていてもいいかな」とBに尋ねた c) BがDVDの話題を出すまで待った	2.60 5.11 2.76	1.04 0.90 0.93
25	Aが街を歩いていると外国人に英語で声をかけられた。どうやら、どうすれば〇〇駅につくのか、と尋ねているようだ。Aは〇〇駅のことを知っているが、英語で説明する自信がない。Aさんは・・・	a) I'm sorry, I don't know. といった b) 外国人の問いかけを無視した c) 一緒に駅まで連れて行ってあげた	3.77 3.11 5.54	0.94 1.32 0.80
26	Aが受けている授業でレポート提出課題を出された。Aは1週間後。Aさんは・・・	a) Aの3日前にレポートを提出した b) Aのちょうど30分前に提出した c) レポートを提出しなかった	4.83 3.80 3.05	1.07 0.99 0.88
27	Aが服屋でジーパンを見ていると、店員が別のジーパンを強く勧めた。Aは予算1万円と考えていたが、念をいれて財布には1万5千円入れておいた。そのジーパンは1万3千円である。Aさんは・・・	a) 店員のセールストークに負けて、そのジーパンを買った b) 店員のセールストークはきくが、しつかりと断った c) 店員のセールストークを無視した	3.74 4.97 4.46	0.70 1.06 0.69

付表1 予備調査1で用いたシナリオと行動の組み合わせと信頼性評価の平均値と標準偏差 (続き)

28	A は日帰り旅行に行った。旅行の帰り際、A さんは・・・	a) 仲の良い友人の分だけお土産を買った b) サークルのメンバーみんなにお土産を買った c) 自分の気に入ったものだけを自費用に買って帰り、旅行に行ったことは周囲に黙っていた	4.14 5.00 3.65	0.49 1.04 0.86
29	A はおなかがいっぱいだったのでファミレスに入った。席に着くとすぐに料理を頼んだ。しかし、いくら待っても料理がこない。A さんは・・・	a) 料理がくるまでひたすら我慢した b) 店員を呼んで、注文が通っているか確認した c) 店員を呼んで、「いつになったらくるんだ」と怒った	4.06 4.68 3.51	1.00 1.07 1.07
30	今日は A の友人の誕生日である。その友人とは親しい仲である。しかし、その日は友人と都合が合わず会えない。A は翌日会った時に誕生日のお祝いをしようと考えている。この日、A さんは・・・	a) メールも電話もしなかった b) その友人に電話し、「明日会ったときにお祝いしようね」と伝えた c) 丁寧に「誕生日おめでとう」とお祝いメールを送った	3.74 5.24 4.92	1.09 1.18 0.86
31	A は○○サークルに所属しています。この日は朝から△△大学に集合して活動をする予定ですが、A は寝坊をしてしまい、時計を見た時には集合時間から5分が過ぎてしまいました。急いでいけば、活動に参加できます。○○サークルの部長に A さんは・・・	a) 「風邪をひいたので、休ませてください」とウソをついた b) 「寝坊をしたので、今から急いでいきます」と伝えた c) 「携帯電話を電車で置き忘れて、著とし物センターにとりに行ってしまいました。今から行きます。」とウソをついた	2.97 4.86 2.81	0.92 1.29 1.05
32	A は一人暮らしをしている。A が住むアパートではゴミは燃えるごみ・燃えないごみ・その他の分別をしなくてはならないことになっている。ごみを出しに行くとき、A さんは・・・	a) 全く分別しないで捨てる b) たまに分別して捨てないことがある c) 毎回分別して捨てるに行く	2.43 3.63 5.32	1.15 1.19 0.67
33	A は友人からボイスレコーダーを借りていた。しかし、あるときその友人から「ボイスレコーダーを早く返してほしい」と言われたので返そうと思ったのだが、家の中を探しても見当たらない。どうやらなくしてしまっただけらしい。A さんは・・・	a) なくしたことを知られたいくないので、新しく同じものを買って返した b) 「教室で机の上において席を外している間に盗まれた」とウソをついた c) 正直に「なくしてしまいました」と友人に伝えた	3.31 1.94 4.78	1.57 1.37 1.25
34	A は商店街を自転車で通り過ぎようとしたところ、そこには自転車通行禁止の標識があることに気付いた。しかし、そのときはあまり商店街を歩く人は見当たらなかった。A さんは・・・	a) 自転車で乗って商店街をつっきった b) 商店街に入る手前で自転車から降りて、押して歩いた c) 迂回した (遠回りになるが、別の道を走ることにした)	3.20 5.63 5.32	0.96 0.97 0.85
35	A は同じゼミの後輩とお酒を飲みに行くことになった。しかし、持ち金は自分と後輩の両方を出すとすつからかんになってしまっほうはどギリギリだった。A さんは・・・	a) 後輩の分も含め全額おごった b) 後輩とは割り勘をした c) 後輩より少し多めに出した	4.89 4.20 4.65	1.16 1.08 0.95

付表1 予備調査1で用いたシナリオと行動の組み合わせと信頼性評価の平均値と標準偏差 (続き)

36	Aは買い物をして、Aはある商品を手にとってレジの前まで行ったが、レジ前で買うかどうか考え直し、結局それを買わなかった。その商品はAさん	a) その商品が置いてあった場所に返した	5.23	0.97
	は・・・	b) とりあえず近くにあって別の商品の棚に戻した	3.17	1.27
		c) 店員に元の所へ戻してもらおうよう頼んだ	3.81	0.78
37	Aは電車の優先座席に座っている。今回乗り合わせた電車は混んでいて、Aがみた限りではすべての座席は埋まっていた。するとある駅についたときに1人の老人が乗車して、Aの前に立った。その老人はつえをついていた。Aさんは・・・	a) 寝たふりをした	2.74	0.98
		b) 「どうぞ、ここに座ってください」と老人がAの前に立った瞬間、すぐに席を立ってゆずった	5.77	0.97
		c) しばらく周りの人たちの様子を見てから「どうぞ」と席をゆずった	5.32	0.92
38	Aはボウリング場に遊びに来ていた。遊び終わって外に出ようとしたとき、外は雨が降っていた。Aは傘をもつてきていない。そして同時に、遊びすぎたため、残金はほとんどなく、傘をかうお金もなかった。Aさんは・・・	a) 雨がやむまで待った	4.03	0.17
		b) 外の傘たてにあって他の客のものであろう濡れた傘を使った	2.49	1.40
		c) 濡れたまま帰った	4.16	0.44
39	Aはクラスの委員長である。Aさんは・・・	a) 立候補して委員長となった	4.66	1.06
		b) クラス内の友人から推薦されて委員長となった	4.85	1.21
		c) じゃんけんで負けて委員長となった	3.84	0.50
40	Aは喫煙家であり、タスポをもっている。そしてAには仲のよい未成年の友人がいる。ある時その友人が「タバコを買いたいからタスポを貸してほしい」と頼んできた。タスポをAさんは・・・	a) 「今回だけだぞ」といって貸した	2.86	1.38
		b) 貸さなかった	5.21	1.72
		c) 「いつでも貸してやる」といって貸した	2.46	1.33
41	Aが散歩していると、ある道路の道端に子猫が捨てられているのを見つけた。子猫は雨に打たれて弱っているように見える。その子猫をAさんは・・・	a) 雨の当たらないところに移動してあげた	5.34	0.97
		b) 見て見ぬふりをした	3.53	1.38
		c) 雨の当たらないところに移動して、近くのコンビニでミルクを買ってきて飲ませてあげた	5.03	1.21
42	Aは今日中に提出しなければならぬレポートを提出し忘れた。Aはルーズでよくレポートをギリギリで提出しないことが多い。それにしびれをきらした教員がAに「もっと真剣を守りなさい」と忠告した。それを聞いたAさんは・・・	a) 教員の目を見ず「すみません」ぶっきらぼうにいった	2.51	1.10
		b) 教員の目を見て「すみません」と頭をさげた	4.74	1.48
		c) 「すみません」とは言わず、「バイトが忙しかつたのです」と理由を述べた	2.81	1.17
43	Aはお屋時にファーストフードの店に入ったところ、非常にレジが込み合っていた。Aさんは・・・	a) 隙を見てあいた列に割り込んだ	2.43	1.09
		b) あきらかに別の店にいった	4.46	0.89
		c) 列の一番後ろに並んだ	4.62	0.68

付表 1 予備調査 1 で用いたシナリオと行動の組み合わせと信頼性評価の平均値と標準偏差 (続き)

44	友人から誕生日にプレゼントをもらった A。来週はその友人の誕生日である。その友人に A さんは・・・	a) A がもらった額と同じくらのプレゼントを友人に贈った	4.71	0.89
		b) A がもらった額よりも高めのプレゼントを友人に贈った	4.69	0.96
		c) A がもらった額よりも低めのプレゼントを友人に贈った	3.68	0.63
45	バイト中にミスをしてしまったことに気づいた A。他の人はまだそのことに気づいていません。ミスしたことを A さんは・・・	a) 誰かが気づいても、白を切る (知らないふりをする)	2.86	0.85
		b) 自分から報告して謝る	5.57	1.38
		c) 誰かが気づいたら謝る	3.08	0.83
46	A がお寺巡りをしていると、お寺の前で無人の野菜販売をしているところがあった。そこには金額がかかれた野菜と「ここにお金を入れてください」と書かれた集金箱が置かれているだけである。そこで野菜をかうと思った A さんは・・・	a) 一銭も私わずに野菜をもっていった	1.97	1.01
		b) 選んだ分の野菜を全額集金箱に入れた	5.49	1.29
		c) 一部の野菜の分だけ集金箱に入れた	2.49	1.15
47	A はある日友人と遊ぶ約束をした。約束の日の当日、A さんは集合時間の・・・	a) 10 分前に着いた	5.46	0.92
		b) ちょうどについた	4.60	1.17
		c) 10 分遅れて着いた	3.30	0.78
48	A は道端にサイフが落ちているのを発見した。サイフの中身をチェックしたところ 10 万円が入っていた。サイフを A さんは・・・	a) 財布から 1 万円だけ抜きとって警察に届けた	2.00	0.94
		b) 財布と全額 10 万円を警察に届けた	6.00	1.33
		c) 現金 10 万円を抜き取り、サイフをそのまま道端に置き去った	1.81	0.91
49	今日は入学式。新 1 回生である A は、初対面の人たちと出会う。そのとき A さんは・・・	a) 相手から話しかけられたら、自分からも話題をふる	4.43	0.78
		b) 自分から人に話しかける	4.60	0.91
		c) 相手から話しかけられても、自分からは話題はふらない	3.81	0.52
50	A は高校生である。A はある日、自分のクラスでいじめられている生徒を発見した。その生徒と A は特別親しい仲ではないと思っている。その場を見た A さんは・・・	a) 見て見ぬふりをした	3.14	1.06
		b) その生徒をいじめめる連中にやめるよう、直接言った	5.77	1.22
		c) その場では何もしなかったが、後で担任に報告した	4.68	1.00
51	A は食事に料理店へきている。料理を頼むが、出た料理は自分が注文したものと違うものであった。A さんは・・・	a) 料理が違ふことを店員に言って取り替えてもらう	4.47	0.86
		b) 料理が違ふことは伝えるが、出てきた料理をそのまま食べる	4.49	1.01
		c) 何も言わず、出てきた料理を食べる	3.86	0.87
52	A は飲食店でアルバイトをしている。接客を担当しているが、お客さんに出す料理を A さんは・・・	a) 1 日に何度もつまみ食いをする	2.38	0.95
		b) たまに 1 回だけつまみ食いをする	2.69	1.51
		c) つつまみ食いはしない	4.57	1.15

付表 2 予備調査 2 で用いたシナリオと行動の組み合わせと信頼性評価の平均値と標準偏差

シナリオ	行動	信頼性評価	
		平均値	標準偏差
1 Aさんがジュースの空き缶を手持って歩いているときに、目の前の日用雑貨の店で「燃えるゴミ」のゴミ箱を見つけた。	a) Aさんは、「燃えるゴミ」のゴミ箱に缶を捨てた。	2.43	0.72
	b) Aさんは、店で少額の買い物をし、缶を引き取って欲しいと頼んだ。	3.11	0.87
	c) Aさんは、あきらめて缶を持ち帰った。	3.69	0.81
2 試験のために、Aさんは友人と担当を決めて授業のノートを分担して取ることにした。	a) Aさんは、その授業を何度か欠席してしまい、友人にノートを渡せなかった。	1.71	0.71
	b) Aさんは、その授業を何度か欠席してしまい、友人にノートを渡せなかった。	3.95	0.72
	c) Aさんは、友人が見て理解しやすいように、他の授業よりも丁寧にノートを取った。	4.56	0.69
3 友人に 1,000 円を借りたが相手はそのことを忘れていているようだ。	a) Aさんは、借りたお金のことは言わず、1,000 円分を相手におごった。	2.61	1.05
	b) Aさんは、相手が気がつくまで何もしなかった。	1.57	0.79
	c) Aさんは、相手に 1,000 円を返した。	4.28	0.71
4 Aさんが散策をしていたらマツタケがたくさん生えていた。もちろん他人の土地であるが、だれも見ている人はいない。	a) Aさんは、マツタケを採れるだけ採って持ち帰った。	1.54	0.71
	b) Aさんは、マツタケを一つだけ採って持ち帰った。	2.18	0.89
	c) Aさんは、マツタケには手を付けなかった。	4.18	0.80
5 Aさんが遊園地に行ったら知らない子供がひとりで泣いている。	a) そのとき Aさんは、声をかけて、一緒に親を探す。	4.52	0.74
	b) そのとき Aさんは、声をかけて、係員のところへ連れて行く。	4.61	0.55
	c) そのとき Aさんは、見て見ぬふりをする。	2.24	0.83
6 Aさんは、インフルエンザにかかったが、すぐに病院で薬を処方してもらったため、体は楽になった。しかし、まだ他人に感染させてしまう恐れがあることがわかっている。ちょうど友人と映画を見に行く約束の日で、以前からその予定をとてても楽しみにしていた。	a) Aさんは、マスクをして行つた。	2.68	0.92
	b) Aさんは、マスクをせず行つた。	1.60	0.72
	c) Aさんは、約束は断り、自宅で静養した。	4.03	0.79
7 友人の運転でドライブに出かけたところ、食事前、運転手である友人がビールを注文した。Aは運転免許を持っていない。	a) Aさんは、何もいわず、電車で帰ると伝えた。	2.73	1.22
	b) Aさんは、ビールを飲まないよう注意した。	4.46	0.61
	c) Aさんは、ビールを飲むのを黙認した。	1.80	0.78
8 Aさんは電車に乗っていたら、切符をなくしてしまつた。降りた駅で、駅員に伝えたところ、「どこから乗りましたか?」と聞かれた。乗車した区間の料金は 500 円ほどである。	a) Aさんは、乗った駅より少し近い駅名を伝えた。	1.89	0.78
	b) Aさんは、正直に乗った駅名を伝えた。	4.35	0.70
	c) Aさんは、最低料金の範囲内の駅名を伝えた。	1.63	0.81
9 Aさんが友人と「携帯オフ車庫」に乗ったとき、友人が携帯でメールを打ち始めた。	a) Aさんは、自分もメールをチェックした。	2.33	0.78
	b) Aさんは、自分は携帯を使わないが、友人には注意しなかった。	2.77	0.72

		4.05	0.78
	c) Aさんは、友人に「携帯オート車を返だよ」と注意した。		
付表2	予備調査2で用いたシナリオと行動の組み合わせと信頼性評価の平均値と標準偏差 (続き)		
10	Aさんはひとりで電車に乗り、車内でジュースを飲んでいたら、うっかり座席にこぼしてしまつた。	4.38	0.80
	a) Aさんは、座席をハンカチ等でできるだけ拭いた上で、近くに戻り、誰かが戻りそうになったら「そこ汚れています」と伝えた。		
	b) Aさんは、そのまま離れた座席に移動した。	1.72	0.76
	c) Aさんは、座席をハンカチ等で拭いた上で、離れた座席に移動した。	2.95	0.95
11	Aさんはレポートの締め切りを忘れていて、前日になってそのことに気付いた。一緒にいた友人に、「じゃあ見せてあげようよ」と言われた。	2.86	0.78
	a) Aさんは、友人のレポートを参考に、自分の意見を加えて書いた。		
	b) Aさんは、友人の申し出を断り、すべて自分で書いた。	4.06	0.86
	c) Aさんは、ほとんど丸写した。	1.73	0.80
12	Aは飲食店でアルバイトをしている。勤務終了の時間になったのでタイムカードを押そうとした瞬間、お客さんがどつとお店に入ってきた。その店ではたいいてい、アルバイトは時間通りに勤務を終了する。そのとき、	2.67	0.82
	a) Aさんは、見て見ぬふりをしてタイムカードを押した。	4.33	0.76
	b) Aさんは、店が落ち着くまで残った。	3.64	0.98
	c) Aさんは、店長に「時間なのであがってもいいですか?」と相談した。		
13	荷物をたくさんもつたおばあさんが、長めの交差点を歩いた。信号が点滅し始めた。このままではおばあさんは間に合わなそうである。	4.45	0.71
	a) 後ろを歩いていたAさんは、おばあさんの荷物をもって「よかつたらご一緒にますよ」と言った。	4.13	0.80
	b) 後ろを歩いていたAさんは、見て見ぬふりをした。	2.34	0.81
	c) Aさんは、Bと会話するのを避けた。	1.64	0.76
14	AはBからある歌手のDVDを借りている。3日だけ借りるとBに伝えたが、気が付くと1週間がたっていた。しかし、できればもう少し手元においておきたい。BはDVDを貸したことを忘れていた。	3.81	0.91
	a) Aさんは、BがDVDの話題を出すまで待った。	2.06	0.80
	b) Aさんは、Bと会話するのを避けた。		
	c) Aさんは、BがDVDの話題を出すまで待った。		
15	Aが街を歩いていると外国人に英語で声をかけられた。どうやら、どうすれば〇〇駅につくのか、と尋ねているようだ。Aは〇〇駅の場所を知っているが、英語で説明する自信がない。	3.09	0.85
	a) Aさんは、I'm sorry, I don't know. といった。	1.99	0.84
	b) Aさんは、外国人の問いかけを無視した。	4.47	0.68
	c) Aさんは、一緒に駅まで連れて行ってあげた。		
16	Aは〇〇サークルに所属しています。この日は朝から△△大学に集合して活動をする予定ですが、Aは寝坊をしてしまい、時計を見た時には集合時間から5分が過ぎていました。急いでいけば、活動に参加できます。	1.93	0.78
	a) 〇〇サークルの部長にAさんは、「風邪をひいたので、休ませてください」とウソをついた。	3.67	0.84
	b) 〇〇サークルの部長にAさんは、「寝坊をしたので、今から急いでいきます」と伝えた。		
	c) 〇〇サークルの部長にAさんは、「携帯電話を電車で置き忘れて、落とし物センターにとりに行っています。今から行きます。」とウソをついた。	1.86	0.81
17	Aは一人暮らしをしている。Aが住むアパートではゴミは燃えるゴミ・燃えないゴミ・その他の分類	1.64	0.76
	a) ゴみを出しに行くときAさんは、全く分別しないで捨てる。	2.40	0.73
	b) ゴみを出しに行くときAさんは、たまたま分別して捨てないことがある。		

	別をしなければならぬことになっている。	c) ごみを出しに行くとき A さんは、毎回分別して捨てに行く。	4.24	0.68
付表 2 予備調査 2 で用いたシナリオと行動の組み合わせと信頼性評価の平均値と標準偏差 (続き)				
18	A は友人からボイスレコーダーを借りていた。しかし、あるときその友人から「ボイスレコーダーを早く返してほしい」と言われたので返そうと思ったのだが、家の中を探しても見当たらない。どうやらなくしてしまったらしい。	a) A さんは、なくしたことを知られたくないので、新しく同じものを買って返した。 b) A さんは、「教室で机の上において席を外している間に盗まれた」とウソをついた。 c) A さんは、正直に「なくしてしまいました」と友人に伝えた。	2.84 1.28 3.56	1.11 0.47 1.20
19	A は商店街を自転車で通り過ぎようとしたところ、そこには自転車通行禁止の標識があることに気付いた。しかし、そのときはあまり商店街を歩く人は見当たらなかった。	a) A さんは、自転車に乗って商店街をつききった。 b) A さんは、商店街に入る手前で自転車から降りて、押して歩いた。 c) A さんは、迂回した (遠回りになるが、別の道を走ることにした)。	2.29 4.02 3.90	0.79 0.81 0.81
20	A は買い物をしている。A はある商品を手に取ってレジの前まで行ったが、レジ前で買うかどうか考え直し、結局それを買わなかった。	a) その商品を A さんは、その商品が置いてあった場所に返した。 b) その商品を A さんは、どりあえず近くにあって別の商品の棚に返した。 c) その商品を A さんは、店員に元の所へ戻してもらおうよう頼んだ。	3.95 2.23 3.23	0.78 0.80 0.90
21	A は電車の優先座席に座っている。今回乗り合わせた電車は混んでいて、A がみた限りではすべての座席は埋まっていた。するとある駅についたときに 1 人の老人が乗車して、A の前に立った。その老人はつえをついていた。	a) A さんは、寝たふりをした。 b) A さんは、「どうぞ、ここに座ってください」と瞬間、すぐに席を立ててゆずった。 c) A さんは、しばらく周りの人たちの様子を見てから「どうぞ」と席をゆずった。	2.05 4.33 3.80	0.86 0.76 0.74
22	A は喫煙家であり、タスポをもっている。そして A には仲のよい未成年の友人がいる。ある時その友人が「タバコを買いたいからタスポを貸してほしい」と頼んできた。	a) タスポを A さんは、「今回だけだぞ」と貸した。 b) タスポを A さんは、貸さなかった。 c) タスポを A さんは、「いつでも貸してやる」と貸した。	2.17 4.12 1.71	0.99 0.81 0.89
23	A はレポートを提出し忘れた。A はルーズでよくレポートをメットまで提出しないことが多い。それにしひれをさらした教員が A に「もつとメットを守りなさい」と忠告した。	a) それを聞いた A さんは、教員の目を見ず「すみません」とぶっきらぼうにいった。 b) それを聞いた A さんは、教員の目を見て「すみません」と頭をさげた。 c) それを聞いた A さんは、「すみません」とは言わず、「バイトが忙しかつたので」と理由を述べた。	1.79 3.40 2.03	0.77 0.87 0.84
24	A はお昼時にファーストフードの店に入ったところ、非常にレジが込み合っていた。	a) A さんは、隙を見てあいた列に割り込んだ。 b) A さんは、あきらめて別の店にいった。 c) A さんは、列の一番後ろに並んだ。	1.70 3.10 3.57	0.76 0.36 0.66
25	バイト中にミスをしてしまったことに気づいた A。他の人はまだそのことに気づいていません。	a) ミスしたことを A さんは、誰かが気づいても、白を切る (知らないふりをする)。 b) ミスしたことを A さんは、自分から報告して謝る。 c) ミスしたことを A さんは、誰かが気づいたら謝る。	1.52 4.35 2.66	0.73 0.77 0.88

付表2 予備調査2で用いたシナリオと行動の組み合わせと信頼性評価の平均値と標準偏差 (続き)

26	Aがお寺巡りをしているところ、お寺の前で無人の野菜販売をしているところがあった。そこには金額がかかれた野菜と「ここにお金を入れてください」と書かれた集金箱が置かれているだけである。	a) そこで野菜を買おうと思ったAさんは、一銭も払わずに野菜をもつていった。	1.16	0.39
		b) そこで野菜を買おうと思ったAさんは、選んだ分の野菜の代金を全額集金箱に入れた。	4.32	0.80
		c) そこで野菜を買おうと思ったAさんは、一部の野菜のだけ集金箱に入れた。	1.63	0.72
27	Aはある日友人と遊ぶ約束した。	a) 約束の日の当日、Aさんは、集合時間の10分前に着いた。	4.36	0.71
		b) 約束の日の当日、Aさんは、集合時間ちょうどに着いた。	3.80	0.72
		c) 約束の日の当日、Aさんは、10分遅れて着いた。	2.21	0.74
28	Aは道端にサイフが落ちていたのを発見した。サイフの中身をチェックしたところ10万円が入っていた。	a) Aさんは、サイフから1万円だけ抜きとって警察に届けた。	1.54	0.77
		b) Aさんは、サイフと全額10万円を警察に届けた。	4.59	0.74
		c) Aさんは、現金10万円を抜き取り、サイフをそのまま道端に置き去った。	1.19	0.51
29	Aは高校生である。Aはある日、自分のクラスでいじめられている生徒を発見した。その生徒とAは特別親しい仲ではないと思っている。	a) その場を見たAさんは、見て見ぬふりをした。	2.33	0.80
		b) その場を見たAさんは、その生徒をいじめめる連中にやめるよう、直接言った。	4.40	0.76
		c) その場を見たAさんは、その場では何もしなかったが、後で担任に報告した。	3.72	0.84
30	Aは飲食店でアルバイトをしている。Aは接客を担当している。	a) お客さんに出す料理をAさんは、1日に何度もつまみ食いをする。	1.57	0.71
		b) お客さんに出す料理をAさんは、たまにつまみ食いはしない。	1.99	0.82
		c) お客さんに出す料理をAさんは、つまみ食いはしない。	3.89	0.82

調査項目は「信頼できる(1)～信頼できない(5)」のスケールで提示されたが、本表では「信頼できない(1)～信頼できる(5)」に変換済みの数値を表した。

Limited Effect of General Trust in Judgment of Others' Trustworthiness

Nahoko HAYASHI, Fumio MURAKAMI

【Abstract】

In previous studies on general trust, empirical evidence of the relationship between general trust and judgment accuracy of others' trustworthiness is not consistent. In this study, focusing on the amount of information that can be used to determine the target's trustworthiness, we examined the effect of general trust on evaluations of initial information and subsequent information. We also examined the relationship between individual psychological characteristics and the pattern of reaction to subsequent information. The results of the study suggest that the effect of general trust on the evaluation of trust information disappears rapidly in accordance with information to be added. In addition, the results showed that those people who tend to think of trying to make use of others in order to promote their self-interest (with a high instrumental relationship-oriented score) do not lower their evaluation of the target's trustworthiness rapidly in response to subsequent negative information.

Keywords and Phrases: judgment of trustworthiness, general trust, instrumental relationship-oriented scale, caution